

平成 18 年 知床国立公園の利用について



知床五湖園地／一湖の混雑状況(6月26日)

目 次

1. 斜里町および羅臼町の観光客入込み状況	1
1-1. 斜里町	1
1-2. 羅臼町	2
2. 知床半島先端部地区	3
2-1. 知床岬	3
2-2. 知床沼	5
3. 知床半島中央部地区	6
3-1. 知床五湖地域	6
3-2. カムイワッカ地域	8
3-3. ホロベツ地区	9
3-4. 知床連山地域	10
3-5. 羅臼湖地域	12
3-6. 羅臼温泉地区	13
4. 野生生物	14
4-1. ヒグマとの軋轢	14
4-2. 夜間の動物観察	15
4-3. 海域の利用と野生動物に対する影響	16

1. 斜里町および羅臼町の観光客入込み状況

1-1. 斜里町

平成 18 年の斜里町における観光客入込み状況は前年と比較すると 4～6 月が増加しているが 8～10 月の利用者が多い時期には逆に減少する傾向が見られた（表 1）。日帰り客と宿泊客の内訳を見ると、宿泊客には大きな変動が見られず、日帰り客の増減が入込み者数の増減に影響を与えていることがわかる（図 1）。

表 1. 斜里町の観光客入込み者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
H16年	21,145	124,670	85,081	30,737	91,980	135,958	207,738	311,706	250,628	233,760	33,530	29,648	1,556,581
H17年	23,459	137,952	90,300	28,818	78,682	133,809	220,703	367,075	303,464	281,680	40,107	25,980	1,732,029
H18年	21,226	112,241	79,528	32,320	90,857	153,120	220,876	338,800	281,044	264,948	34,273	27,215	1,656,448
前年比	90%	81%	88%	112%	115%	114%	100%	92%	93%	94%	85%	105%	96%
前前年比	100%	90%	93%	105%	99%	113%	106%	109%	112%	113%	102%	92%	106%

データ: 斜里町観光統計資料

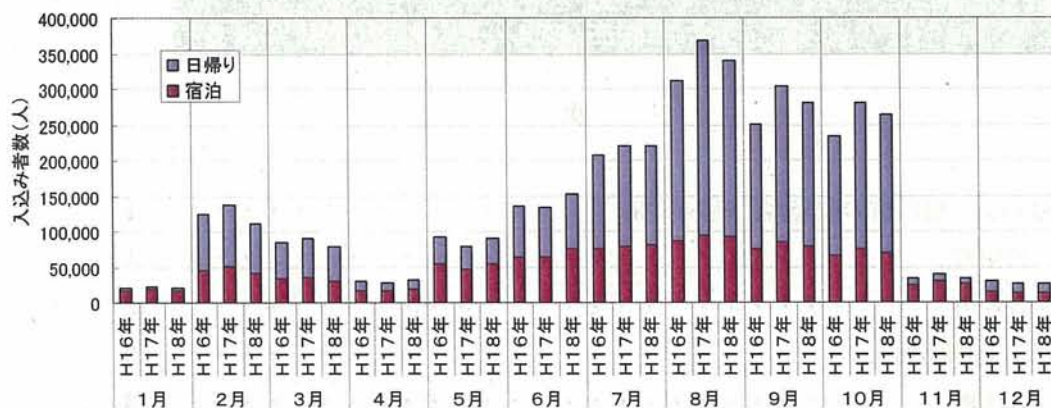


図 1. 斜里町の観光客入込み数 宿泊客、日帰り客の構成

データ: 斜里町観光統計資料



斜里町により公園内の景勝地である「プユニ岬」、「フレベの滝」、「カムイワッカ湯の滝」、「知床五湖」の看板が更新されている。

また、公園外では「三段の滝」、「オシニコシンの滝」、「夕陽台」、「オロンコ岩」、「来運公園」、「以久科原生花園」が更新されている。

1-2. 羅臼町

平成 18 年の羅臼町入込み者総数は前年と比較して大きな増減は見られなかった。月別に比較すると 9 月に関してのみ 10%の減少が見られた（表 2）。一方、日帰り、宿泊客の構成を見ると、斜里町では宿泊客数が安定し、日帰り客の増減で総観光客数が変動していたのに対して、羅臼町では平成 18 年の宿泊客数は前年と比較して減少傾向にあり、日帰り客が増加することによって前年と同等の入込み者数が保たれていることがわかる（図 2）。

表 2. 羅臼町の観光客入込み者数 年別比較

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
H16年	3,608	6,870	5,651	10,182	75,637	53,537	151,562	200,434	132,020	63,184	5,932	5,418	714,343
H17年	3,830	6,745	6,596	11,020	58,120	66,199	173,095	211,834	140,869	67,053	6,409	5,782	757,552
H18年	3,903	6,824	6,994	11,074	59,316	67,797	181,889	214,053	127,258	67,682	6,429	5,858	759,077
前年比	102%	101%	106%	100%	102%	102%	105%	101%	90%	101%	100%	101%	100%
前前年比	108%	99%	117%	109%	78%	127%	120%	107%	96%	107%	108%	108%	106%

データ: 羅臼町観光統計資料

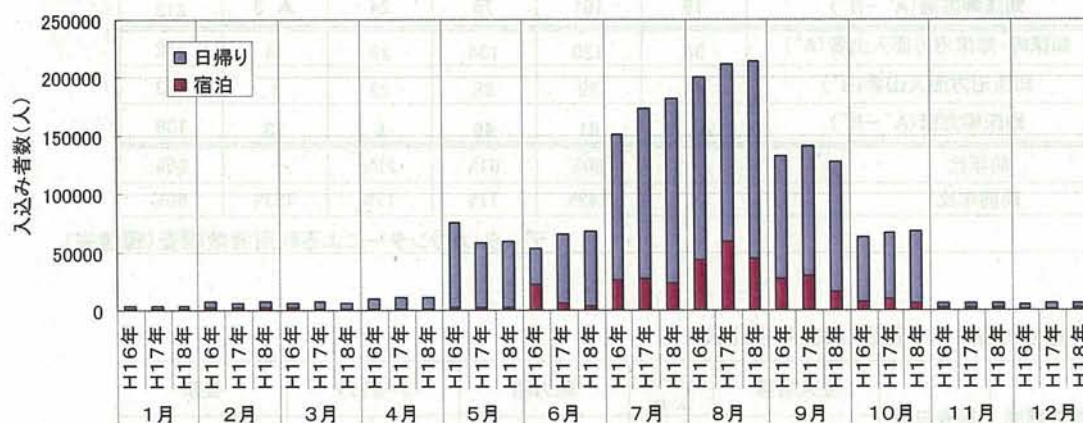


図 2. 羅臼町の観光客入込み者数 宿泊客、日帰り客の構成

データ: 羅臼町観光統計資料

羅臼町により公園内の景勝地である「相泊温泉」、「セセキ温泉」、「セセキの滝」、「熊岩」、「熊の湯」の看板が更新された。また知床羅臼町観光協会では、事務局の体制強化、広報用の映像入り DVD の作成、冬期間の観光船運航および雪上ツアーの宣伝パンフレットなどの作成などに取り組んでいる。



2. 知床半島先端部地区

2-1. 知床岬

知床岬方面への海岸縦走利用者についてはウナキベツ川付近に設置した2台の入山カウンターデータにより推測することができる。平成18年の知床岬方面への入込みは前年同様7、8月に集中していたが、総合的には前年よりも35%の利用者減となった(表3)。

現地での立ち入り者数調査の結果より、動力船による立ち入り人数は前年と大きく変わらなかったが、シーカヤックによる立ち入り者数は前年の2倍以上と大きく増加した。一方徒歩による立ち入り者数は前年の58%と減少した(表4、図3)。

なお、知床における利用者数の急激な増加による自然環境への影響を抑えるため、平成18年4月に環境省から「知床半島先端部地区への立ち入り自粛要請」を発表している。

表3. 知床岬・知床沼方面 カウンターによる入山者数測定結果(人)

		6月	7月	8月	9月	10月	計
H16年	知床岬・知床沼方面入山者(A)	30	151	110	56	15	362
	知床沼方面入山者(B)	12	94	50	21	12	189
	知床岬方面(A-B)	18	57	60	35	3	173
H17年	知床岬・知床沼方面入山者(A')	34	134	144	45	0	357
	知床沼方面入山者(B')	18	33	69	21	3	144
	知床岬方面(A'-B')	16	101	75	24	▲3	213
H18年	知床岬・知床沼方面入山者(A'')	36	120	134	28	14	332
	知床沼方面入山者(B'')	43	39	88	22	1	193
	知床岬方面(A''-B'')	▲7	81	46	6	13	139
前年比		-	80%	61%	25%	-	65%
前前年比		-	142%	77%	17%	433%	80%

データ:カウンターによる利用者数調査(環境省)

表4. 知床岬地区の立ち入り者数 調査年別比較

調査年	調査期間	調査日数	立入者数		平均人数 (人/日)	動力船		シーカヤック		徒歩	
			文吉湾 ～赤岩	文吉湾 ～相泊		グループ*	人数	グループ*	人数	グループ*	人数
H8	8/12～18	7	141		20	19	78	6	13	6	50
H9	8/11～16	6	353		59	42	299	4	24	6	30
H10	8/12～21	9	200		22	24	123	5	25	6	52
H13	8/10～13 17～20	6	83		14	12	44	1	2	6	37
H14	8/18～19	12	203		17	34	124	5	21	13	58
H15	8/12～17	6	80	84	13	15	60	1	1	7(9)	19(23)
H16	8/6～16	11	114	149	10	14	69	5	28	9(21)	23(52)
H17	8/12～19	8	66	100	8	8	39	5(6)	15(16)	5(10)	26(45)
H18	8/11～17	7	89		13	10	40	4	34	5	15
前年比			135%	-	163%	125%	103%	80%	227%	100%	58%
前前年比			78%	-	130%	71%	58%	80%	121%	56%	65%

※()内は相泊から赤岩間でカウントされた人数を含む。

データ:知床岬立ち入り実態調査(知床財団)

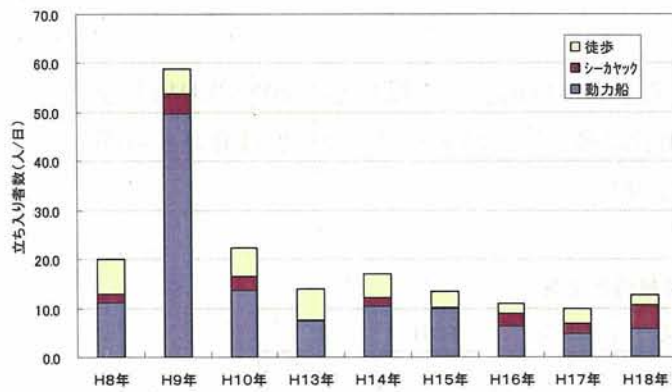


図 3. 知床岬地区（文吉湾～赤岩）への1日あたりの平均立ち入り人数（8月中旬）

データ: 知床岬立ち入り実態調査(知床財団)



シーカヤック利用状況



徒歩利用状況

なお、知床岬地区は昭和 59 年に関係機関で定められた申し合わせによりレクリエーション目的の遊漁船による上陸利用が制限されていることから、8 月 25 日に環境省、林野庁、海上保安庁、北海道、斜里町による合同巡視を実施。上陸者には遭遇しなかったものの、たき火の跡を 2 か所で確認している。



知床岬先端部(啓吉湾)のたき火跡



同アブラコ湾のたき火跡

2-2. 知床沼

平成 18 年の知床沼・知床岳方面への立ち入り者数は前年と比較して約 30%の増加となった。月毎にみると当地は例年 7, 8 月に利用者が多い傾向があるが、今年度は 6 月から多くの利用者が立ち入っていたことがわかる（表 5）。

表 5. 知床沼・知床岳方面 カウンターによる入下山者数測定結果

		6月	7月	8月	9月	10月	計
H16年	入山者	12	94	49	21	11	187
	下山者	11	76	38	21	12	158
H17年	入山者	18	33	69	21	3	144
	下山者	15	36	40	20	0	111
H18年	入山者	43	39	88	22	1	193
	下山者	27	43	50	24	1	145
前年比	入山者	239%	118%	128%	105%	33%	134%
	下山者	180%	119%	125%	120%	0%	131%
前前年比	入山者	358%	41%	180%	105%	9%	103%
	下山者	245%	57%	132%	114%	8%	92%

平成 16 年は、9/19～10/8 間のデータがバッテリー切れのため欠損

データ:カウンターによる利用者数調査(環境省)



植生上に設置されたテント（8 月 13 日）



知床沼空中写真（平成 16 年）

〔～：踏み跡〕

知床沼では、植生上での野営や通行時の踏みつけにより、チングルマなどの植生の荒廃が進行している。

3. 知床半島中央部地区

3-1. 知床五湖地域

平成 18 年の知床五湖駐車場利用台数は世界自然遺産登録により大幅に増加した前年と比較してほぼ同じ数値となった（表 6）。月別に見ると 4～6 月の利用台数が大きく増加したのに対して利用者の多い 8～10 月は減少傾向が見られた（図 4）。しかし遊歩道の混雑は例年と変わらず、歩道をショートカットする利用者により踏み跡が目立つ状況となっている。一度踏み跡がつくと入り込んでしまう利用者が後を絶たなくなるため、現地で得られる落枝等で踏み跡をふさぐ等の対応を行っている。また、適正な利用を促進するため、チラシやHPによる啓発を実施している。

表 6. 知床五湖駐車場における駐車台数 年別比較

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計
H16年度	640	7186	6474	10843	17082	14569	8704	143	65641
H17年度	490	6107	8767	15034	21741	17449	12043	1167	82798
H18年度	627	8401	10675	16259	20867	16454	10234	1184	84701
前年比	128%	138%	122%	108%	96%	94%	85%	101%	102%
前前年比	98%	117%	165%	150%	122%	113%	118%	828%	129%

データ：(財)自然公園財団資料

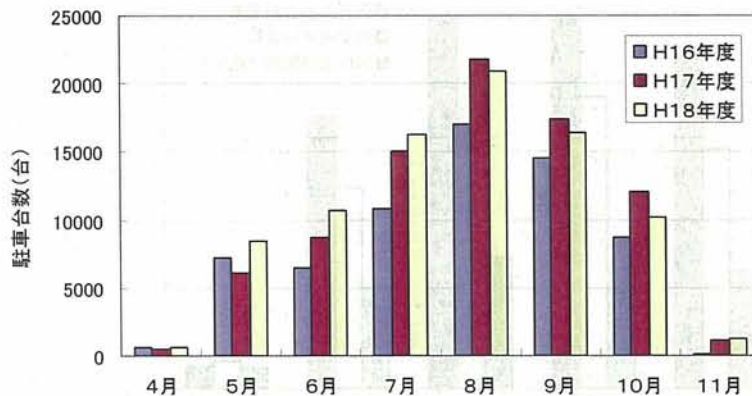


図 4. 知床五湖駐車場における駐車台数 年別比較

データ：(財)自然公園財団資料



五湖入口における渋滞時の様子(8月14日)



混雑するトイレの様子(10月13日)



落枝を用いて踏み跡を塞いだ様子



チラシ配布状況（レストハウス内）

平成 18 年からは既存の旧高架木道、遊歩道に加えて展望台へ接続する新高架木道を供用している。高架木道の利用者が最も多かったのは、9 月であった。11 月を除く各月とも 3 万人以上の利用があった。また 5 月及び 11 月は遊歩道に対して高架木道の利用率が高かったと推察することができる（図 5）。

なお、駐車台数とシャトルバス利用者数より推計すると、年間を通した利用者数は、平成 17 年は 63 万人以上（平成 16 年は 45 万人以上）と推測される。一方、平成 18 年は駐車場利用車種の内、大型バスの割合が増加したことを受け、68 万人以上に増加したものと推定される。

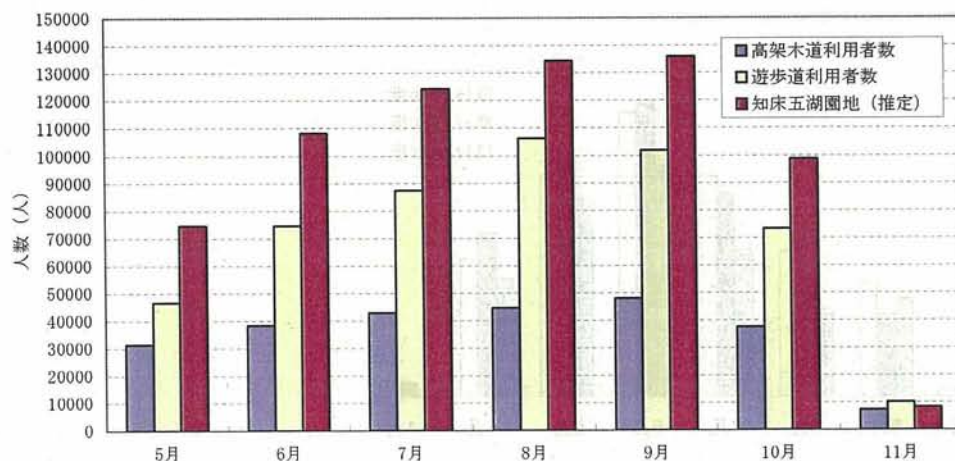


図 5. 高架木道と遊歩道及び知床五湖園地の月別利用者数の推移

※高架木道、遊歩道利用者数はカウンター測定値を使用。

知床五湖園地利用者数は駐車台数及びシャトルバス乗車人数から推計した月別推定利用者数を使用。

データ: カウンターによる利用者数調査(環境省)



周回歩道利用状況(6月26日)



新高架木道利用状況(9月12日)

3-2. カムイワッカ地域

適正な利用を促進するため、自動車利用適正化対策として、マイカー規制やシャトルバスの運行、チラシ・HPによる啓発等の対策を実施している。

シャトルバスの平成 18 年の総乗車人数は、7 月 13 日～9 月 20 日の 70 日間（台風による運休のため実質 69 日間）で合計 31,081 人（ウトロ温泉バスターミナル、知床自然センター、専用駐車場からの利用者）であり、同じく 70 日間の規制期間であった前年と比較して 34%減少した。平成 12 年からデータが揃っている 8 月 1 日から 8 月 17 日の間のシャトルバス乗車人数について 7 年間の比較を行うと、今年度が最も少ない利用者数であった（図 6）。今年度はカムイワッカ川の沢内における落石の危険性から一の滝上部より上流への立ち入りが制限されていたため、利用が落ち込んだものと考えられる。

今年度は利用者の大きな怪我などの重大な事故は起きなかったが、立ち入り制限区域への立入り、外国人観光客の一般車両による進入、ペットの持ち込みなどの問題行為が確認された。

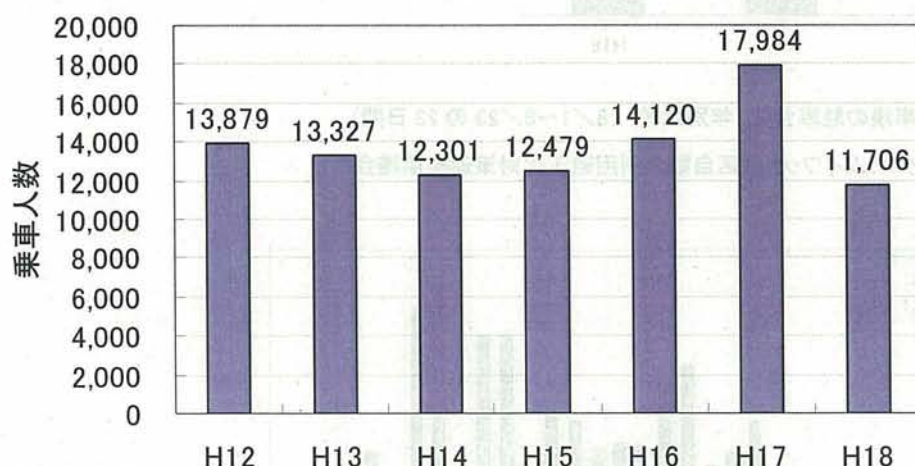


図 6. シャトルバス乗車人数(8/1～8/17)

平成 13 年度までは自然センターと専用駐車場からの乗車人数のみカウント

平成 14 年度以降はウトロ温泉バスターミナルからの乗車も含めてカウント

データ:カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会資料



シャトルバスを待つ利用者（8 月 14 日）



一の滝の混雑状況（8 月 15 日）

3-3. ホロベツ地区

(1) 知床自然センター

平成 18 年のカムイワッカ地区自動車利用適正化対策実施期間のうち、平成 16 年からのデータが揃っている 8 月 1 日～23 日における知床自然センターの駐車台数は前年と比較して 3,652 台の減少となった（図 7）。また、自然センター利用者数の指標としてダイナビジョン映像の利用者数をみると、平成 18 年はこれまで比較利用の少なかった 1～6 月に大幅に増加していることがわかる（図 8）。さらに、利用者の増加には個人、団体利用者双方の増加が起因していることも読み取れる。

なお、繁忙期には昨年度に続きインフォメーションカウンター対応に追われる状況が発生したが、電話やメール問い合わせは、昨年度にくらべ減少傾向にあった。

また、観光船が欠航したとき自然センターが混雑する傾向がみられた。

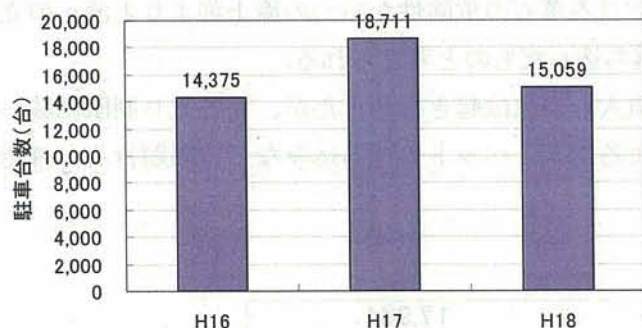


図 7. 知床自然センター駐車場の駐車台数 年別比較（8/1～8/23 の 23 日間）

データ:カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会

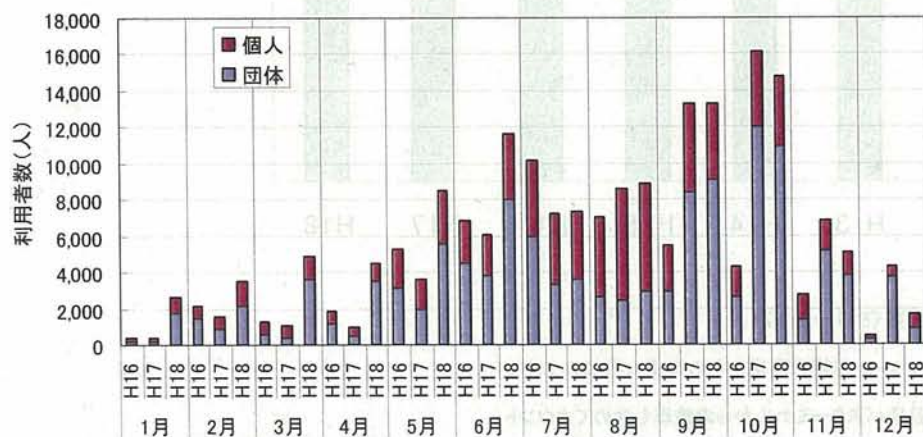


図 8. 知床自然センターダイナビジョン利用者数(人) 年別比較

データ:知床自然センター資料

(2) フレペの滝遊歩道

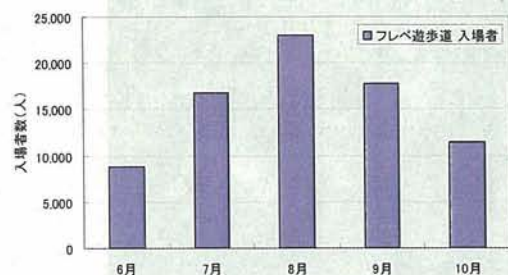


図 9. フレペの滝遊歩道利用者数 カウンター測定値

※調査期間:6月8日～10月31日

データ:カウンターによる利用者数調査(環境省)

平成 18 年度調査期間中（6/8～10/31）のフレペの滝遊歩道総利用者数は 77,765 人であり、月毎に見ると 8 月の 22,965 人が最大であった（図 9）。平成 16 年に知床財団が独自に調査を行った結果によると同期間で約 43,000 人の入場者があったと推測されており、当時と比較して利用者は 2 倍近く増加したものと考えられる。

3-4. 知床連山地域

平成 18 年の総入下山者数は過去 3 年間で最も少なく、1 万人を割り込む結果となった。これは道道知床公園線の落石防止対策に伴う硫黄山登山口の閉鎖が大きな要因と推測される（表 7）。

知床連山岩尾別登山口付近には多くの自動車を利用できる駐車場が整備されておらず、利用者が多い季節には道路沿いに多数の路上駐車が列を作る。曜日をあわせて年別の路上駐車状況を比較したところ、平成 18 年は前年や平成 15 年と比べて駐車台数が少ない日が多い傾向が見られた（図 10）。

また、適正な利用を促進するため、チラシやHPによる啓発を実施している。

表 7. 知床連山登山道における総入下山者数 カウンターによる測定結果(6/17～10/31)

カウンター設置地点		岩尾別	硫黄山	湯ノ沢	合計
H16年	総入山者数	8,884	987	658	10,529
	総下山者数	8,255	1,639	651	10,545
H17年	総入山者数	9,742	227	518	10,487
	総下山者数	8,947	776	504	10,227
H18年	総入山者数	9,057 9,057	-	550 559	9,607 9,607
	総下山者数	8,779 8,779	-	543 557	9,322 9,322
前年比	総入山者数	93% ✓	-	106% 106%	92% ✓
	総下山者数	98% ✓	-	108% 108%	91% ✓
前前年比	総入山者数	102% ✓	-	84% 84%	91% ✓
	総下山者数	106% ✓	-	83% 83%	88% 88%

データ:カウンターによる利用者数調査(環境省)

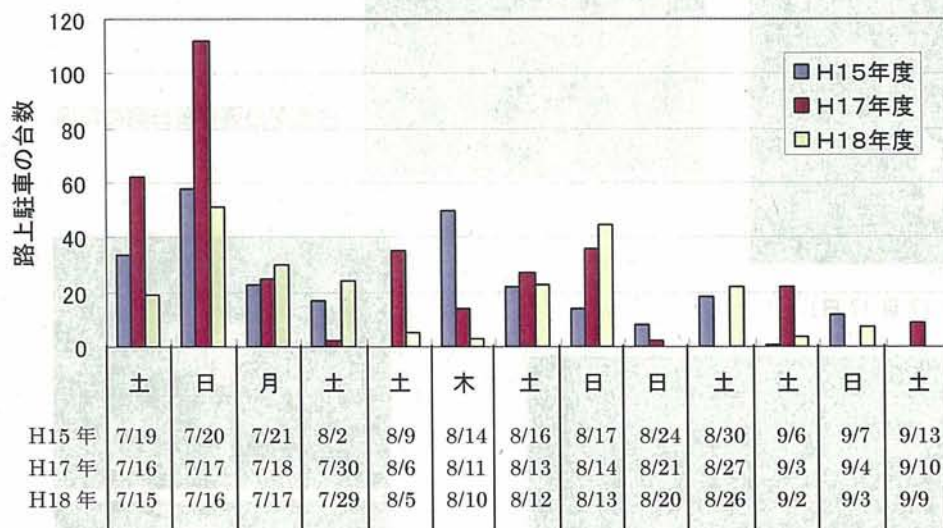


図 10. 岩尾別登山口路上駐車台数(台) 年別比較

データ:路上駐車台数調査(環境省)



路上駐車状況（8月13日）



銀冷水（休憩ポイント）の混雑（7月15日）

平成18年も登山道沿いのトイレ跡が多く目立ち、弥三吉水、銀冷水、羅臼平等の休憩ポイントではアンモニア臭への不快感や水場への影響を懸念する声が聞かれた。なお、岩尾別登山道入口には既設の木下小屋トイレに加えて斜里町によりバイオトイレが新たに設置されている。また、昨年に引き続き、登山道の浸食や登山道脇の植生への立入り、ストックでの突き刺しによる裸地化等が確認された。



羅臼平付近のトイレ跡（7月17日）



浸食が進行し、複線化した登山道



注意が必要な羅臼側の雪渓



岩尾別登山口に新たに設置されたバイオトイレ



積雪による破損のため、更新した岩尾別登山口の揭示板（上：夏期、下：冬期）

3-5. 羅臼湖地域

平成18年度における羅臼湖歩道利用者数は前年と比較して増加した7月を除き全体的に約30～40%の減少となり、総利用者数としては前年よりも1,000人以上（約20%）少ない数値となった（表8）。

これまで歩道整備の必要性について意見が出されていたが、平成18年は北海道の赤レンガ・チャレンジ事業により土壌浸食、木道の破損が著しい箇所の一部について整備が行われた。

また、かねてから交通事故の危険性が懸念されていた歩道入口の路上駐車に関して、路側帯に駐車禁止の札を立てる、地元バス会社の協力により歩道入口付近に停留所を設け、路線バスによるアクセスを可能とする等の対応がとられた。また、適正な利用を促進するため、チラシやHPによる啓発を実施している。

表8. 羅臼湖歩道における総入下山者数 入山カウンターによる測定結果(6/19～10/31)

		6月	7月	8月	9月	10月	合計
H16年	入山者	488	1,521	1,610	1,140	697	5,456
	下山者	537	1,423	1,536	1,247	681	5,424
H17年	入山者	488	1,342	2,459	1,674	1,422	7,385
	下山者	450	1,321	2,302	1,672	1,394	7,139
H18年	入山者	309	2,091	1,732	1,292	467	5,891
	下山者	312	2,130	1,662	1,287	448	5,839
前年比	入山者	63%	156%	70%	77%	33%	80%
	下山者	69%	161%	72%	77%	32%	82%
前前年比	入山者	63%	137%	108%	113%	67%	108%
	下山者	58%	150%	108%	103%	66%	108%

データ:カウンターによる利用者数調査(環境省)



歩道のぬかるみ及び土壌浸食状況



駐車禁止の札



路上駐車状況



赤レンガ・チャレンジ事業



新設されたバス停

3-6. 羅臼温泉地区

(1) 羅臼ビジターセンター

平成 18 年の羅臼ビジターセンター利用者数は 4～6 月について前年度を大きく上回り、逆に利用者が多い 7～9 月については前年度からわずかに減少するという結果となった（表 9、図 11）。

世界遺産登録に伴う夏期の混雑を予想し、個人、団体ともに知床地域の旅行時期を早めている可能性があり、その影響が来館者数に現れたと考えられる。

表 9. 羅臼ビジターセンター利用者数(人) 年別比較

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
H16年	96	244	198	191	621	869	1,287	1,684	1,093	1,153	232	107	7,775
H17年	106	355	262	220	457	858	1,402	1,833	1,258	1,201	270	122	8,344
H18年	83	269	296	379	603	1,170	1,346	1,770	1,106	1,203	257	144	8,626
前年比	78%	76%	113%	172%	132%	136%	96%	97%	88%	100%	95%	118%	103%
前前年比	86%	110%	149%	198%	97%	135%	105%	105%	101%	104%	111%	135%	111%

データ: 羅臼ビジターセンター資料

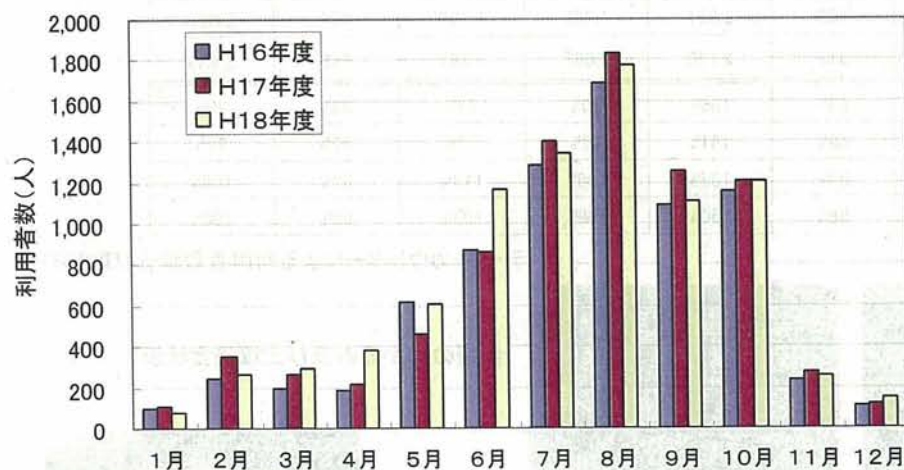


図 11. 羅臼ビジターセンター利用者数(人) 年別比較

データ: 羅臼ビジターセンター資料

(2) 熊越えの滝

平成 18 年に初めて歩道入口に入山カウンターを設置し、利用者数の調査をおこなった。歩道入口は知床横断道路途中のわかりにくい上、駐車帯もないため、利用者の総数はあまり多くないが、夏期には比較的頻繁に利用されている（表 10）。

表 10. 熊越えの滝歩道における総入下山者数 カウンターによる測定結果

		6月	7月	8月	9月	10月	合計
H18年	入山者	144	315	396	228	166	1249
	下山者	153	324	393	229	176	1275

データ: カウンターによる利用者数調査(環境省)

4. 野生動物

4-1. ヒグマとの軋轢

平成 18 年はヒグマと利用者との重大な接触が複数回起きている。以下に概要を示す。

- ・ ヒグマによる釣り人のザックの持ち去り
9 月 7 日、幌別川河口でマス釣りを行っていた釣り人がヒグマにザックを持ち去られた。ザックは持ち主から離れた場所に置いてあり、中にはパンなどの食料が入っていた。通報を受けた知床財団スタッフがヒグマを追い払い、付近を探索したところ破れたザックを発見したが、中に入っていたパンが食べられていた。
- ・ シーカヤック利用者のテントへの接触
8 月 28 日、エタウシペニ湾にて幕営していたシーカヤック利用者のテントにヒグマらしき動物がのしかかった。当時テント内には女性二人がおり内側から押し返す等の行動を取った。食料はカヤックのハッチに保管してあったが、食器類は付近にたてたタープ下に置かれていた。その後幕営地付近で若いヒグマが接近してくるのをテント外にいた別の男性が発見し大声で怒鳴って威嚇したところ、クマは逃走。
- ・ 知床峠付近でのヒグマへの餌やり情報
7 月 17 日、知床峠駐車場と羅臼湖歩道入口の間で当歳仔 2 頭連れの親子グマに対して車から餌やりをしている様子を観光バス運転手が確認。その後自然ガイドを通じて羅臼ビジターセンターに通報され、環境省羅臼自然保護官事務所により峠駐車場への餌やり厳禁の張り紙、付近の巡視の強化等の対応が取られた。
- ・ 国設羅臼温泉キャンプ場でのヒグマ出没
9 月 25 日、国設羅臼温泉キャンプ場にて宿泊者がヒグマを目撃。他の宿泊者からは「何かの動物にテントをたたかれた」との情報もあり、当日中にクマ出没注意の張り紙と、キャンプ場利用者に対して食料保管の徹底等の注意を行った。翌日、羅臼町と根室支庁が協議しキャンプ場の閉鎖が決定し、利用者は全員退去した。

上記のような重大な事件だけではなく、岩尾別川沿いや、幌別川河口でのカメラマンによるヒグマの接近撮影や道路沿いに出没したヒグマに不用意に接近する観光客が多く存在する。カメラマンがヒグマに接近することによって、危険意識のない一般利用者までもヒグマに誘導されてしまう事例もあり、ヒグマに関する正しい知識の啓発（知床財団及びウトロ自然保護官事務所によりチラシを用いた注意喚起を実施）が課題となっている。



幌別川河口でヒグマに荒らされた釣り人のザック(9 月 7 日)



幌別川河口でヒグマを撮影するカメラマン(10 月 17 日)

4-2. 夜間の動物観察

知床国立公園内では近年、夜間の野生動物を観察する観光ツアーが活発に行われている。平成 18 年度の調査では知床五湖方面の道道及び岩尾別温泉方面町道において 4 日間で計 107 台の自動車を確認された（表 11）。バス事業者、ガイド事業者は強力なサーチライトを用いているため自然環境に対する影響の有無について、今後の継続的な調査が望まれている。

表 11. H18年度知床五湖方面道道・岩尾別温泉方面町道車両入込み状況

	ガイド事業者	バス事業者	一般車両	合計
8 月 12 日	4 台(17%)	6 台(26%)	13 台(57%)	23 台
8 月 13 日	3 台(14%)	8 台(36%)	11 台(50%)	22 台
8 月 14 日	3 台(8%)	7 台(19%)	27 台(73%)	37 台
8 月 15 日	3 台(12%)	9 台(36%)	13 台(52%)	25 台
合計	13 台(12%)	30 台(28%)	64 台(60%)	107 台

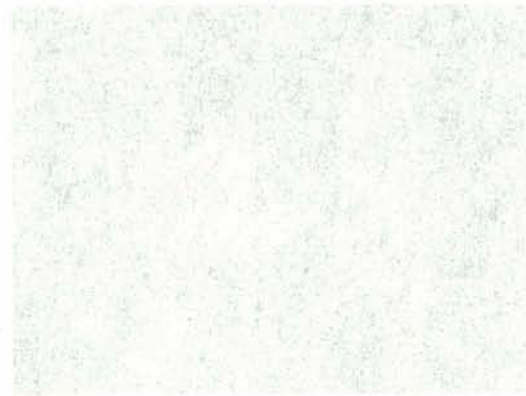
データ: 夜間動物観察状況調査(知床財団)



知床公園線を通過するバスの車列(8/12)



知床五湖・カムイワッカ方面分岐付近状況 (8/14)



4-3. 海域の利用と野生動物に対する影響

知床半島斜里側海岸線は春から夏にかけてケイマフリを代表とする海鳥類の重要な営巣地となっているが、同時期に沿岸部を頻繁に航行する観光船にその活動を阻害される可能性が懸念されている。平成 18 年には 8 月 24 日から 9 月 15 日までの期間に 5 日間、観光船に乗船し、GPS を用いた航路の確認やその他運航状況についての調査が行われた。

観光船の航路を前年と比較すると、ケイマフリの海上分布が最も多いプユニ岬周辺では陸から 100m 以上離れて航行していたものの、フレペの滝では全ての船が湾内に進入し、東側の岸壁には 10 数mまで接近していた（図 12）。

ケイマフリの営巣数が平成 16 年の 7 巣から平成 17 年の 0 巣と激減した五湖の断崖では、以前ほどの岸壁への接近は確認されなかった（図 13）。

ルシャ地区沖に関してはヒグマ出没時に岸に接近する観光船の様子が目撃されている。その際ヒグマは観光船を気にすることなく通常の行動を続けていた。

知床岬行き便の運航は各社が同時刻に出発しているため、各船が集中して岬付近を航行する状況となっていた。

なお、平成 17 年 7 月まで行われていたオオセグロカモメ等への餌やりは平成 18 年も行われていなかった。



「男の涙」における岩礁への接近（9 月 3 日）

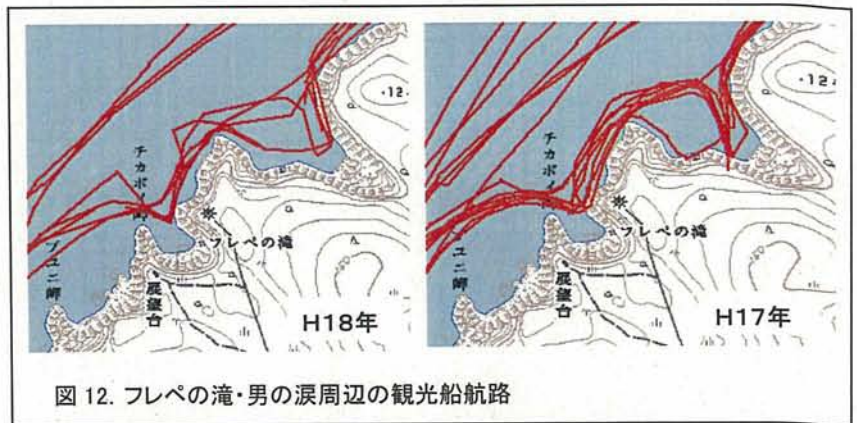


図 12. フレペの滝・男の涙周辺の観光船航路

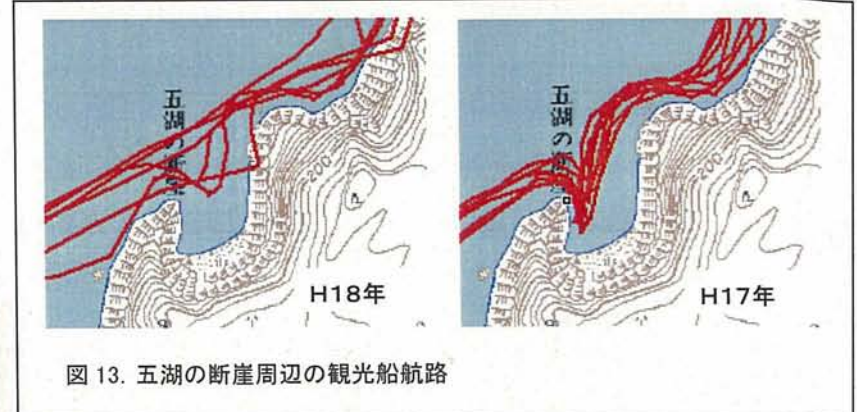


図 13. 五湖の断崖周辺の観光船航路

データ：海域の利用と野生動物に対する影響調査（知床財団調査）



ルシャ地区海岸線でのヒグマウォッチング（9 月 15 日）



知床岬から見た観光船の運航状況（8 月 8 日）